

# 令和7年度 文京区障害者地域自立支援協議会

## 第3回 就労支援専門部会 要点記録

日時 令和8年1月19日(月)14:00~15:15  
場所 文京シビックセンター 3階 障害者会館A・B会議室  
出席者 志村 健一 協議会副会長・瀬川 聖美 部会長・藤枝 洋介 委員・見城 圭美 委員  
小野寺 肇 委員・山口 裕紀子 委員・池田 直矢 委員・小泉 洋平 委員・野村 育代 委員  
長澤 みこ 委員・中瀬 茂由 委員・石田 由美子 委員・東 恵子 委員・森 裕介委員  
望月 大輔 区委員  
欠席者 前田 貴子副部会長・平井 芙美 委員・鶴田 秀昭 委員・小谷野 恵美 区委員

### <会議次第>

#### 1 開会

#### 2 議題

(1) 令和7年度就労選択支援事業に係る取組について

【資料第1号】

(2) 令和7年度 障害者地域自立支援協議会 全体会について

【資料第2号】

#### 3 閉会

### <配布資料>

- ・令和7年度就労選択支援事業に係る取組について 令和7年度第3回就労支援専門部会 【資料第1号】
- ・令和7年度 全体会の概要案……………【資料第2号】

### <参考資料>

- ・参考資料1:令和7年第3回就労支援者研修会配布資料 アセスメント結果シート
- ・参考資料2:令和7年度就労選択支援アセスメント可能な作業場面に関するアンケート結果
- ・参考資料3:就労選択支援事業のチラシ
- ・参考資料4:支援者説明用補足資料 令和7年12月版

## 【開会】

- ・部会長より、開会の挨拶。
- ・事務局より、欠席者及び当日資料の確認。
- ・新委員、東委員の紹介及びご挨拶。

## 【議題】

### (1) 令和7年度就労選択支援事業に係る取組について

#### 【資料第1号】

- ・資料について、事務局より説明。
- ・「第3回支援者研修会」の説明時に、参考資料1の説明を行う。
- ・「アセスメント実施についてのアンケート」の説明時に、参考資料2の説明を行う。
- ・「チラシ及び説明補足資料」の説明時に、参考資料3の説明を行う。
- ・その他にて、参考資料4の説明を行う。

#### (各委員より)

- ・支援者研修会にも参加した。具体的なイメージができてきたところである。通学区域(文京区、豊島区、北区)の3区の福祉課の方々と、就労アセスメントを行えるように準備していく会議を開催。高校1年生の時から、「アセスメントを受けたい」という生徒の対応を考えていく。
- ・豊島区は来年度より、就労選択支援事業をスタートする。文京区とも共有して進められるようにしたい。
- ・ご本人や保護者に、就労選択支援事業のことを、説明していく必要がある。
- ・研修会にも参加した。各機関の連携の仕方についてイメージがついた。
- ・まだ課題はあるように思える。B型の回答が多いのは、実習生を受け入れている実績がある為、協力も多いと思われる。
- ・補償(お金)の問題については、場所を提供した事業所への補償等、基盤を整えていかないといけない。
- ・受け入れが広がっていかないことも現状。連携していくことが大切である。
- ・事業所に、軽作業がなく、アセスメントを行うことは難しいと思う。
- ・12月までは、就労移行であったが、12月末に閉鎖。B型で軽作業を行っていることもあり、アセスメントの協力は行える。
- ・就労移行のアセスメントの対象は、令和9年である為、少し時間はある。作業が少なく、メンタルプログラムが中心になっている。座学であり、グループワークもない為、アセスメントは難しい。
- ・報酬が発生しないことも、事業所としては困惑してしまう。
- ・リワークデイケアとしては、PCスキルのアセスメントまでは行えないが、PCに強い事業所であれば心強い。
- ・文京区内で1事業所であるのは、広くアセスメントを取らなくてはならない現状もあり、負担が大きい。つなぐ際に、事業所としての見立てを、しっかりと伝える等、連携が必要である。
- ・B型事業所希望者について、他県にはなるが、「アセスメントは必要ない」と言われたとのこと。

## (2) 令和7年度 障害者地域自立支援協議会 全体会について

### 【資料第2号】

- ・資料について、事務局より説明。
- ・当日配布のチラシも一緒に説明。
- ・各委員の方が、就労選択支援事業で、『一番大切にしたいこと』、『一番期待したいこと』について、2語程度で表現してもらいたい。全体会にて共有していかないと考えている。

(各委員より)

- ・全体会については、他の部会の発表も聞けるようだが、今回は「就労専門部会」がメインの会になっているのか。
- ➡全体会については、チラシにも記載があるが、毎年、どこかの部会に焦点をあてて発表していく形となっている。昨年度は当事者部会（防災について、民生員とのコラボレーション）に発表していただいた。
- ・アセスメント結果シートの利用の仕方について、当事者目線で考えると、取り扱いを心配する。使われ方と、どのような時に見られるか、明らかにしておく方が良い。本人自身で選べる運用にしてもらえると良い。
- ・アンケート結果について、期待以上の回答があったことは良かった（成果があった）。
- ・アセスメントを取る事業所（場）を確保していくことが大切である。
- ・学校の通学エリア、生活エリア、就労の場所等、エリアが異なってくることがあり、区独自の対応ではなく、都に対応してもらうことが良いと考える。
- ➡文京区だけの制度ではなく、ある一定のニーズの内容であれば、広域の中で統一した考えるものがあると、ご本人や関係機関にとっても良い。
- ・都に相談してはいる。都も関心を持っており、現状を把握しているところである。
- ・支援学校の実習費はどのようになっているか？
- ➡5日以上の実習を実施していただいた事業所や企業については、「学期で5,000円」となっている。数回実習を受けていただいても、「5,000円」である。ただ、辞退される事業所や企業もある。
- ・障害児と障害者の違いもあり、費用の負担についても課題になってくると思われる。
- ・就労選択支援事業に係るケースは少ない状況である。大学中退で引きこもりのケースで、保護者から、「受けた方が良いか？」との問い合わせがあった。職業センターの職業評価との違いについても説明する難しさもある。

### ●『一番大切にしたいこと』、『一番期待したいこと』の2語

「透明性」、「納得」、「協同」、「自己決定」、「自覚」、「自己分析」、「中立性」、「希望」、「本人主体」  
「本人中心」、「多様性」、「可能性」、「選択」、「連携」、「理解」、「発見」、「開拓」、「自己理解」、「自立」

### 【閉会】

- ・ホットな内容である為、動きの報告していくことで、周囲の区よりも早い動きになっており、また連携して行っている。「途切れのない支援」を考えていく上でも、その方の人生設計として考えていく上でも、大切な就労選択支援事業になっている。

以上